徳島教育大綱

令和元年８月
徳島県

目　　次

1　大綱策定の趣旨・・・

1　大綱策定の趣旨

徳島県では、平成27年度から平成30年度までの４年間の教育、学術、文化及びスポーツの振興に関する施策の根本となる方針として、平成27年12月、「徳島教育大綱」を策定しました。

この間、喫緊の課題である人口減少の克服と東京一極集中の是正を図るため、消費者庁等の「消費者行政新未来創造オフィス」の開設や、全国屈指の光ブロードバンド環境を活用した情報通信関連企業やサテライトオフィスの集積、ＬＥＤを基軸とする産業振興や６次産業化のさらなる推進など、数多くの**課題解決の処方箋**を全国に発信してきました。

今、我が国は「人口減少」と「災害列島」という**国難とも呼べる課題**に直面するとともに、「第４次産業革命」の進展による*超スマート社会*「Society5.0」**の到来**や「巨大経済圏」の形成など、国内外の社会環境が劇的に変化しており、さらには、持続可能な開発目標*「SDGs」**の達成**も期待されるなど、これまでの常識が通用しない「未知の世界」が眼前に広がる時代を迎えています。

これまでの取組をもう一段高い次元へと進化させ、**「地方創生の旗手」**と呼ばれた徳島が**「未知の世界」に挑戦**し、日本全体を「持続可能な社会」へと導いていくためには、徳島の未来を担う**「人」を育てること**が重要です。

本県の未来を担う全ての「人」に、徳島が誇るべき歴史と風土、脈々と受け継がれてきた**「進取の気質」**をしっかりと継承するとともに、未知なる世界を自ら切り拓き、「持続可能な社会」を創造する力を育む**「徳島ならでは」の未来教育**を実践するため、新たな「徳島教育大綱」を策定します。

今後は、この大綱に沿って、徳島の教育力を結集させ、本県の宝である**「人」づくり**に全力で取り組んでいきます。

2　位置付け

この大綱は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第１条の３第１項の規定に基づき、本県における教育、学術、文化及びスポーツの振興に関する総合的な施策についてその目標や施策の根本となる方針を定めるもので、教育分野についての県総合計画の上位の概念として位置付けています。

また、大綱の行動計画として、「徳島県教育振興計画（第３期）」により、本県教育の振興のための具体的な施策や成果目標を示しております。

3　推進期間

令和元年度（2019年度）から令和４年度（2022年度）までの４年間とします。

4　基本方針

「徳島ならでは」の教育により、大きな夢や高い目標を持って、未知の世界に果敢に挑戦する、本県の宝である「人財」の育成をめざします。

未知の世界に果敢に挑戦する、
夢と志あふれる「人財」の育成

「人財」の具体像

①　人口減少の進行や、超スマート社会「Society5.0」の到来など、
社会のあり方が大きく変わる中で、自らの将来をしっかりと見据え、
未知の事象に対しても果敢に挑み、主体的に課題を解決していく力を身に付け、

「未来を切り拓いていく人財」

②　人と人、人と地域のつながりの中で、多様性を認め合い、他者を思いやる心と
健やかな体を育むとともに、生涯を通じて学び、成長を続けながら、

「新たな価値を創造していく人財」

③　本県の豊かな自然や世界に誇るあわ文化などの魅力を実感し、
徳島への郷土愛や誇りを持ち、持続可能な社会づくりの担い手として、

「地域を輝かせる人財」

5　重点項目

基本方針に掲げる「人財」を育成するため、あらゆる分野・世代の教育力を結集し、「徳島ならでは」（※）の特色あふれる未来志向の教育施策を積極的に推進することで、徳島の未来を担うすべての「人」に対して、個人の能力・適性に応じた、質の高い学びを提供します。

これらの施策を着実かつ、スピード感を持って展開していくため、組織横断的な体制で取り組むとともに、市町村や関係機関との有機的な連携を積極的に図ります。

※「徳島ならでは」の教育とは

若杉山遺跡の発掘から浮かび上がる辰砂の供給地、阿波忌部で知られる朝廷とのつながり、中世に活躍した才気あふれる三好長慶の輩出など、徳島は古くから、時代を支える重要な役割を担ってきました。

連綿と続く歴史の中で、先人たちから脈々と受け継がれる進取の気質や精神に根ざした教育施策を推進するとともに、それらをしっかりと育み、次代に継承することで、徳島教育大綱の基本方針の実現をめざします。

可能性に挑戦する「こころいき」

先人たちは独創的な技法により阿波藍の品質向上に努めるとともに、積極的に販路の開拓を図ることで、全国の市場を席巻しました。また、人類学者の鳥居龍蔵先生は先進的な調査方法により、世界各地のフィールドワークを行い、日本文化の起源を明らかにしようとしました。先人たちの、可能性に果敢に挑戦し、よりよいものにしていこうとする「こころいき」に倣い、チャレンジ精神や向上心をしっかりと育みます。

困難に打ち克つ「たくましさ」

先人たちは日本有数の暴れ川として知られる吉野川の洪水を活かし、日本一の藍作地域に育ててきました。また、世界農業遺産ともなった「にし阿波の傾斜地農耕システム」など、厳しい自然環境を克服し、共生してきました。さらに、阿波藩医だった関寛斎先生は、70歳を過ぎてから北海道に渡り、開拓に貢献してきました。先人たちの、困難に打ち克つ「たくましさ」に倣い、壁にぶつかってもくじけず、それを乗り越えていこうとする心をしっかりと育みます。

人や自然、地域を大切にする「おもいやり」

長い歴史を超えて継承されてきた、四国八十八箇所巡礼で知られる「おもてなし」、板東俘虜収容所における人道的で敬愛に満ちた、ドイツ人と地元民との心温まる交流、また、救貧事業やボランティア、社会運動などを通じて、友愛・互助・平和の精神を説き続けた賀川豊彦先生など、先人たちの、人や自然、地域を大切にする「おもいやり」に倣い、人を愛し、自然豊かな郷土を愛する心を大切に育みます。